



大分県立竹田高等学校
関東同窓会
会報

第19号

発行者・会長 長吉 泉
編集者・委員長 神田 清
発行所・関東同窓会事務局
〒100-0014 東京都千代田区
永田町2-4-11フレンドビル7F
電話 03(5251)2730
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷 謹

幹事会報告

平成十一年度

関東同窓会運営方針等を協議

幹事長 西 誠(昭30年卒)

●秋の幹事会

協議事項

昨秋十一月十六日に開催された幹事会を中心に活動状況を報告致します。

組織、名簿両委員会のご尽力により、四十三年卒以降の関東在住同窓生五三七名の追加登録を予定しております。調査の結果で会員名簿への掲載人数は多少減る見込みですが、これで掲載会員数が二千名以上になるのは確実と思われれます。

関東同窓会の今後の運営を考えると、①財政基盤の安定化と②組織の活性化が常時課題となります。

(一) 財政基盤の拡充

第一の問題について先の幹事会で、受益者負担を押し出して総会当日会費の値上げを求め、多

彩な記事で充実して参りました会報臥牛の年二回の発行、郵送や会員名簿の更新等にもかなりの費用を要します。これらの経費を賄い、更には総会当日の会費をなるべく据え置き、同窓会らしい裾野の広い参加を促すためにも維持会員制度は欠かせません。

(二) 組織の活性化

第二の問題については、卒業三〇年の帰郷同年会が定着して、その後の同年会が各学年とも盛んに行われている様子が会報で伺えますが、この活力を縦の繋がりとしての同窓会活動に生かすことが求められます。裾野の広い活動を確保するには幹事会への欠席学年を減らさなければなりません。各学年幹事に

●竹田・東京

懇話会を開催

毎年秋になりますと中野サンプラザで竹田会(会長一里見豊・日本パーカライジング社長)が開かれますが、その機会を利用して地元有志と竹田会及び関東同窓会有志との間で毎年懇話会を持つことになり、昨秋も開催されました。(竹田・東京懇話会)と称します。

このことは関東同窓会では第六回総会において「竹田を考えるシンポジウム」として既に検討会が行われていますが、地方の時代をむかえて愛する郷里、母校の町、竹田の振興を願う合同懇話会であります。

地元では「たけた研究所」を結成するなど既に相当の対策が進んでおりますが、東京側からは限られた範囲ではあるが遠くからみて意見をいうことになり

ます。会員の皆さまには助言、ご意見を事務局までお寄せください。中央向きから個性を磨け！地域再考とでもいうのでしようか、交通アクセスに配慮し、竹田市、大野、直入の近郊同士が連携して恵まれた自然と共生しながらの発展を願う次第です。最後に、関東同窓会の諸先輩のご指導ご助言と各委員長をはじめ委員の方々の協力とご奉仕に感謝を申し上げます。



郷里竹田より上京の地元有志を囲み恒例の懇談会 — 竹田・東京懇話会 —

総会と懇親会のご案内

乞ご期待!

第十二回

関東同窓会

日時

平成十一年七月十七日(出)

受付 AM十一時半

場所

センチュリーハイアット

(桃山の間)

●総会 ●懇親会

企画

当番幹事

第十期(昭33年卒)

第二十期(昭43年卒)

一、総会

・ 会務会計報告

・ 監査報告

・ 新年度の方針他

二、懇親会

当番幹事さんによる余興大会他

尚、会場は地域別に椅子席を準備。先輩後輩

の交流にご期待下さい。

企画委員長

匂坂 慎輔

伝承文化の華開く

国民文化祭おおいた98 民謡・民舞の祭典

文化の祭典「国民文化祭・おおいた98」が十月十七日から二十六日までの十日間、県内三十二の市や町で開催されました。



▲「竹田甚句」豊政美会



▲「佐渡おけさ」(新潟県)



▲オープニングを飾る華やかな「宗麟音頭」

来ませ見せましょ里の唄

第一部は「民謡で訪ねる豊の国」と題して、「豊後竹田の四季音頭」や「銭太鼓おどり」など、県内を代表する民謡を披露。また、第二部では「見たい聴きたいふるさと自慢」と題して、誰でも知っている全国の有名な唄が披露されました。

午後からは下本町から西古町までのパレードがありました。「神戸ハイヤ節」(兵庫県)、「金比羅船々」(香川県)、「花笠音頭」(山形県民謡振興会)ほか六団体がパレードに出演し、普段見ることのできない民謡を多くの市民が楽しみました。

第三部では「活粋おおいた・活粋につぼん」と題して、「豊後追分」や「阿波踊り」など、県内外の出演団体との競演が華やかに舞台を飾りました。

竹田市長から次の開催地の岐

竹田市では、民謡民舞の祭典(全国民謡民舞まつり)が十月二十四日、竹田文化会館で開催され、全国から七十二団体、九百九十人が出演しました。



▲会場から大きな拍手がわいた「津軽じょんがら節」(青森県)



▲「田楽ばやし」(広島県)

早稲高山市に引き継ぎが終わり、舞台をはじめ、会場いっぱいの踊りの輪ができ、「別府音頭」で盛大なフィナーレを迎えました。この「民謡民舞の祭典」を通して、文化交流や出会いから、二十一世紀の竹田市にとって、新たな創造を生む力となったのではないのでしょうか。関係者のみなさま、お疲れさまでした。

燃える!!

クラス会・同期会

各学年毎の開催詳細状況等掲載が紙面の都合により出来ず
お詫び旁々学年別概要のみ左記の通りお知らせ致しました。

各学年クラス会開催状況

| 年次 | 実施年月日 | 参加人員 | 開催場所 | 原稿提供 |
|------|--------------|------|-----------------------------|---------------------------|
| 45期会 | 10年10月20-22日 | 14名 | 大菩薩峠—大菩薩嶺 恵林寺—石和温泉泊 | 前田 健 (20卒) |
| 25年卒 | 10年11月7日 | 53名 | 別府(サンパリアアネックス) 幹事—大分地区担当 | 佐藤邦夫 (25卒) |
| 26年卒 | 10年10月30日 | 25名 | 東京(赤坂飯店竹橋店) | 馬弓良彦 (26卒) 高木正子 (//) |



秋期26会 於 竹橋赤坂飯店 10・10・30



45期—山の会員他 於 大菩薩峠

“みとみ会”全国集会
卒業40周年盛大に開催

塔尾恵美子(昭33年卒)

竹田高校三十三会(みとみ会)卒業40周年記念全国集会在、梅雨入りしたばかりの六月六日(土曜日)神戸、関西の奥座敷有馬温泉「兆楽」で開催されました。

恩師、都留嶺芳先生、田北和義先生、城下義郎先生、首藤昭夫先生のご列席を仰ぎ、全国各地から七十九名の参加で、盛大な全国集会となりました。五年前(平成五年)に箱根で三十五周年会を開催し、多くの出席者の同意でこの会となりました。なかには四〇年振りの再会に厳寒ロビーは一時パニック状態のにぎやかさでした。

午後六時からの大宴会場での懇親会は、当番幹事の渡辺映二さん、上恭子さんの司会で進められ、物故者二十五名のご冥福を祈って黙とうの後、今回の幹事長小野侃爾さんの歓迎のあいさつ、四〇年前とかわらない四人の恩師のなつかしいお話を拝聴し、涙のでる程感動しました。飲む程に酔う程に、若き日の武勇伝、失敗談、迷惑をかけた恩師へのお詫び、と……故郷竹田の方言が飛びかいた時のたつのも忘れませんでした。四〇年の長い年数がアツい間に縮まり、フォ



みとみ会 卒後40周年記念全国集会 於 有馬温泉「兆楽」

ークダンスを興じ、盆踊りの輪ができ宴たけなわのところ竹田からの主席者代表(次回の幹事)の中メの後、下石信夫さんの指揮で、校歌の大合唱、万歳三唱、閉会の挨拶の後、次回は二年後の六〇才還暦の年に故郷竹田での全国集会を約束し、二次会となりました。

翌六月七日も梅雨晴れの晴天に恵まれ、ほぼ全員参加で観光バスに乗り、明石海峡大橋観光の復興のすばらしさ、淡路震災記念公園野島断層保存館を見学、在校中には味わえなかった修学旅行のようでした。新神戸駅前のおこや亭での昼食の後解散……夕方神戸をそれぞれ出発

し、北へ南へと車中の人となりました。幹事の皆様、お世話になりました。(関東同期会幹事)

四十二年臥牛会 総会
当番幹事後に修学旅行

染井 洋(昭42年卒)

四十二年臥牛会は、高校卒業三十周年の記念同窓会を、昨年夏、竹田高校で開催した。その際、今度は一緒に旅行しようと約束して分かれた。今年の第十二回関東同窓会総会・懇親会で、三十二会とともに四十二年臥牛会が当番幹事を務めるのを機に、箱根への修学旅行を計画し、竹田の事務局から、参加を全国に呼びかけた。

七月十一日当日、竹田からはもちろん、愛媛・姫路・京都・名古屋など全国各地から懐かしい顔が新宿に集まった。関東同窓会総会・懇親会で、受付、会計、司会などそれぞれ分担された仕事を勤めながら、旧交を温めた。関東同窓会終了後、修学旅行不参加者とは残念ながら会場で別れ、二十五名(女九名、男十六名)がロマンスカーで、箱根湯本河鹿荘に向かった。露天風呂で体を休め、再会を喜び、近況を報告、夜更けまで語りあった。*

会員特別寄稿

幕末の岡城に生まれた 異色の篤学者―中川久知

(第二回)

安東 和彦(昭25年卒)



中川久知(明治40年撮)

中川久知 安政六(一八五九)〜大正一〇(一九二一) 博物学者。衆議院議員。岡藩主中川久昭の第二子。藩校の由学館で漢籍を学び、明治四年(一八七二) 上京して丹羽家塾に入り、ついで逢坂学舎で英語と数学を学んだ。明治八年東京英語学校に入学、開成学校を経て一〇年には東京大学に進んで理学を専攻した。明治一三年から麻布学農社の嘱託教師、内務省地理局勤務を経て、愛媛、福岡、熊本各県の中学校・師範学校教諭、第五高等学校教授を歴任し、博物学を研究した。明治三二年には農事試験場に転じ、三六年に大分県選出の衆議院議員となる。しかし衆院解散で明治三七年から農事試験場に復帰し、昆虫学の研究を深めた。明治四四年に正六位勲五等瑞宝章を受けた。大正二年に従五位に叙され、また同年熊本医学専門学校講師となり解剖学を担当した。大正九年には九州博物学会の終身会長になる。

▽参考文献 直入郡志 (大津祐司)

久知が昆虫の研究に携わったのは農事試験場時代の十五年位。比較的短い期間だが、その間に久知は驚くべき多数の研究論文を発表している。イネの害虫について、中でも久知の名を後世に残すことになったのは、明治四十年に発表した「葉鞘変色茎の切取り」というイネのズイムシ(ニカメイチュウ)の新しい駆除方法の提唱である。「葉鞘変色茎」という用語も久知の命名である。この方法は早期発見によって禍根を未然に排除くもので、省力的で効果の上がる、当時としては画期的な駆除法であった。

この作業のために「葉鞘変色茎切取鎌」(注1)という道具が考案され広く使用された。細長い柄の先に可愛らしい刃のついた、鎌というより「孫の手」のような感じの道具で私も子供の頃見た記憶がある。一体何に使うものだろうと不思議に思ったことを鮮明に憶えている。恐らく年配の方には心当たりがおありだろうと思う。

しかし、この方法は最初中々受け入れられず、久知は事ある毎に講演で話したり雑誌に書いたりして普及に努めたという。そのうち大正初年にズイムシの全国的な大発生があり、それを契機にこの方法の優秀性が認められ広く普及した。

太平洋戦争後、海外からズイムシの特効薬のような新しい殺

虫剤が入って来てから、ズイムシは簡単に駆除出来るようになった。この久知の提案した「葉鞘変色茎の切取り」はそれ以来全く行われなくなった。しかし応用昆虫学の教科書には以前行われていたズイムシの防除方法として必ず載っている。

久知の業績は一般の人にはなじみが薄い。しかし後進の学者の中には久知の仕事が高く評価し、尊敬の念を抱くものも少なくなく、もし久知が居なかったら今日の応用昆虫学はなかっただろうと遠い人もいるという。大激変の時代、逆境の中をひたすら自らの天職に徹し、農業技術の発展のために大きな足跡を残した中川久知の名は、田能村竹田や広瀬武夫の名と共に郷土の誇りとして永く我々の心の中に留めたいと切に思う。久知の生まれた岡城はもう迄もなく竹田のシンボルでもあるのだから。

直入郡教育会編集の直入郡志の篤学者の項には次の記述がある。「久知、資性謹厳廉直にして極めて篤学、最も英語、数学、農科、理科等を究むといへども、なかんづく博物学に精通す。常に辺福を飾らず、世におもねらず、終生夜々として斯学の研鑽に汲頭せり。農事試験場技師として特に昆虫学について造詣し、本邦斯界にその人ありと知られたり。大正九年、九州博物学会終身会長に推撰せられたること、蓋しゆえありといふべし」。

「一隅を照らす」という言葉があるが、久知の生涯は正にそうであったとの感を深くする。

千三〇〇四

埼玉県大宮市大谷七二四一七

安東 和彦

(公・函)四八八(五三九)

(注1)「葉鞘変色茎切取鎌」



(後記)

この第一回が出てすぐ三十六年卒の山村伊吹氏より電報を頂き、それ迄全く手懸りのなかった久知の御遺族の消息が判明、同氏のお力添えで久知の外孫の野口且夫氏(三喜美術印刷社長)にお会いすることが出来ました。竹田会の有難さと活字の威力を再認識した次第です。

久知の経歴には大分縣から衆議院議員になったり、熊本の五高で漱石やハーンと同僚だったりと興味あることが少なくありません。何か情報をお持ちの方は是非御一報お願いします。



岡藩主中川侯の菩提寺



関東同窓会総会に出席の臥牛会(昭42年卒)の一同

※臥牛会は団塊のピーク世代で今年次々に「天命を知る」年齢となる。ピートルズを聞きながら「荒城の月」を口ずさみ、全学連のデモの中でも「ストーム」を思い出していたように、心の故郷は「竹田」である。

♪ 戦い勝てり、美酒を酌みて讀えん、君が御名光涼しく、月照れば

喜びに満つ、臥牛城、箱根の山にひびくストームを聞きながら、遠く故郷の山河と青春の日々を思い出し、心の故郷を共にする友と安らぎの時を持つことができた。

改めて、事務局や参加者のみなさんに感謝したい。

(完)

委員会報告

企画委員会

企画副委員長 桑島 輝茂
(昭42年卒)

関東同窓会も早いもので、十
三回を迎える事になりました。
第一回がつい昨日の様な思いが
する今日この頃であります。

当番幹事制を始め基本的な運
営レシピーを作成する事により、
少しづつやりやすくなって来た
と考えております。

今年(昭三十三)年、四十三年の
卒業生のご協力を頂き着々と準
備が進んでおります。

今年(昭三十三)年は会場内に昔懐かしの夜
店スタイルの模擬店を造り、荒
城の月の焼酎を入田の名水割で
お楽しみ頂いたり、ニッキやコ
マ等を準備して頂いております。
又、プロ歌手寿川有里さんの歌
声聞きながら楽しいご歓談を
し、懐かしのポップスや演歌、
軍歌を全員で声高らかに合唱し、
同窓生が一つの大きな輪になっ
ている事でしょう。

平成不況と言われ底の見えな
い経済状況の中で、竹高健児と
して力強く生き抜き、懐かしい
人との出合は掛け替えのない宝
物と考えます。出合の場である
同窓会に未だご出席をされた事
のない方は是非心の扉、会場の

扉を開けてご参加して欲しいと思
います。

最後に学年幹事のみなさん大
変ご苦労が多いと思いますが、
より一層のご協力をお願いします。
上げ、ご報告とさせていただきます。

第13回 関東同窓会詳細

平成11年7月17日(出) 12時~15時
場所 センチュリーハイアット桃山の間
当番幹事 昭和33年・43年卒業
余 興 バンド演奏 '50年~'60年代ポップスヒットメドレー
青春の歌声 あの日に戻って大声で懐かしい歌を歌おう
(別紙チラシを案内状に同封する)

会場内には、当時の懐かしい夜店を出店します。「ニッキ水」「か
けコマ」「ビー玉」「オハジキ」等々、昔のおモチャや昔の味をご家
族へのお土産にどうぞ。尚故郷の味「焼酎荒城の月」「入田の水」「か
ぼす」のチューハイを準備致します。心いくまでご賞味下さい。

よみがえる青春の思い出!

第1部 ポップスヒットメドレー

ベンチャーズからビートルズ
演奏: エス・エム・シー
ギター 徳武 弘文
ベース 三浦 晃
ドラム 六川 正彦
ギター 星川 薫
ピアノ ピアノコージ

第2部 青春の歌声

青春時代の懐かしい歌を
大声で歌いましょう
歌唱指導 寿川 有里
愛国行進曲より高校3年生まで
(敬集 参加者全員に進呈)

会員特別寄稿

随筆

傘寿を迎えて追憶漫談

相談役 渡辺 正治
(昭10年卒)

私の故郷は豊後の山奥竹田町
の隣村・小富士村草深野で、滝
廉太郎の「荒城の月」で有名な
「岡城」を見下ろす高台地であ
る。南方に宝仙寺山塊が黒々と
横たわりその西端に富士に似た
小富士山がある。岡城の天守閣
から南方正面に望まれ、三河吉
田の藩主・松平家から養子に來
た岡藩八代の藩主・久貞公が命
名した山・村の名前である。そ
の山頂には公の墓所があり、小
学校の遠足によく行った。中川
家はかくれキリシタンで、その
紋所は飾り十字であり、その紋
の付いた墓標は横長い異常な形
で、良くその上に跨って先生に
叱られたものである。

草深野はその名の通りの片田
舎であるが、唯一つの自慢は何
一つ遮るもの無く東西南北を見
渡せる眺めであった。大正の終
わりから昭和の初めにかけての
少年時代、東は三国連山、南は
祖母・傾の九州山脈の深緑、西
に阿蘇の噴煙、東北に久住・大
船・黒岳の連山、その間を繋ぐ
阿蘇の外輪・久住高原の直線の
地平線に没する夕日は今も印象
に残る。またよく晴れた日には

北方に神岳寺・鳥岳連山の彼方
に豊後富士の由布山を眺められ
た。

先頃、シカゴ在住の甥が、妻
のノエルを連れて故郷の村を訪
ねて来た。その時四方の景色を
眺めて彼女が「オーノ ワンダ
ーフルノ」と叫んだものである。
二人は共にシカゴのNorth
Western Universityの同窓であ
り、現地に職を得たのである。
東京赤坂での披露宴で和服に文
金高島田姿の彼女が日本語で挨拶
したのである。

「……私が淳に惚れたのは、学
校の構内の出来事でした。ある
日片方のコンタクトレンズを落
として困って居ると、通り掛か
った彼が熱心に探して見付けて
くれたのです。それは本当の一
目惚れでした……」。会場全員の
大笑いとなったのである。

初めて英語の単語を知ったの
は、小学五・六年の頃先生から
ニュース(NEWS)は四方か
ら集まるのよ、North East
West Southの頭文字を集めた
ものと教えられたものである。
昭和五年、中学一年生となり、
初めて習った英語の先生は、守
分美寿太・ミスター・モリワケ
先生であった。学校を卒業され
たばかりの若い先生で、親から
付けられた珍しい名前は、決し
て英語をモジッタものではない
と仰って居た。多くの漢字と四
十八文字の平仮名と片仮名で書
く日本語に比べて、僅か26文字
のアルファベットで綴る言葉の

不思議さと、奇妙な発音に悩み
ながら、興味を引かれる学科で
あった。

その年の暮れに、九州各地の
中等学校の英語弁論大会が大分
市の教育会館で開かれ、私が選
ばれて参加する事になった。題
目は童話「王子とチャイルド」ロ
ーラン。物語を暗唱するのであ
る。参加者は女子学生が多く上
級生ばかり、一年生は自分一人
であった。

さて演壇にあがって童話の暗
唱を始め乍ら、ふと聴衆の中に
父の姿を見つけてびっくりし、
途端に言葉が続かなくなつて終
わつた。前日、「自分も行きた
いがお前が気にして失敗すると
悪いから行かない」と言つて居
たのである。

目前の座席に居た守分先生か
ら、大きな声で「初めからやり
直し」と言われて最初からやり
直し、どうやら終わりまで続け
る事が出来たものである。全員
の発表が終わるみんなが舞台上に
上り、写真をとって大会は終わ
つた。一等賞を貰つたのは長崎
の私立女学校の生徒で、他に賞
をもらったのも女子が多かつた。
勿論私は落第である。後で先生
から「いったいどうしたの?」
と聞かれ、来るはずの無い父の
姿が見えてびっくりした事を話
すと、先生は大笑いされて居た。
所が大分駅について待合室に入
ると、隅っこに父がひっそりと
座つて居たのである。

(次号に続く)

ふるさと名所紀行

～岡藩主おたまや公園～



碧雲禅寺



岡藩主 中川家廟



おたまや公園

佐藤 毅士 (昭28年卒)

豊後竹田駅から稲葉川沿いを左手に十五分ほど歩いて、豊岡橋を過ぎると、白壁に囲まれた背後に小高い杜を控えた岡藩主中川侯の菩提寺である龍護山碧雲寺がある。

本来この岡城から見晴らす景勝の地は、初代藩主中川秀成が慶長十七年(一六一二)春、茶屋を建てる予定で着工されていたが、同年八月、秀成の他界により、二代藩主久盛が父の心を思いやって、この地に菩提所を建立したのである。寺号を「碧雲寺」としたのは秀成が朝鮮遠征の際に手に入れた扁額の文字によるもので、秀成の法名は「碧雲寺殿圓翁宗鑑大居士」と名付けられている。

碧雲寺境内東側にある歴代藩主の墓地及びその庭園を整備し、「岡藩主おたまや公園」として、一般に公開している。「おたまや」は「御霊屋」のことで、本来は墓石、石棺、墳墓などを覆うようにして建てられた墳墓堂を意味している。この墓地には初代秀成、二代久盛、四代久恒、五代久通、六代久忠、九代久持、十一代久教の各殿様の墓石が建てられている。又、三代久清は大船山に、八代久貞は小富士山にそれぞれ墓所が置かれている。

公園の中央にある池は「龍吟池」と名づけられ「蓮」の群棲を見ることが出来る。さらに公園の東側には、岩壁に三体の「線彫磨崖仏」阿彌陀如来、勢至菩薩、観世音菩薩が歴代藩主の霊を見守っている。

平成五年、碧雲寺、高流寺を含めたこの中川墓所が「国指定史跡」となった。これは大名の墓所としては保存状態がきわめて良好であるとの高い評価を、文化庁から受けての指定であった。竹田市の関係者も、今後の保存整備に更に力を入れていくことを検討している。

- 一、開園時間 午前九時～午後五時
- 一、休園日 月曜日と休日の翌日及び年末、年始
- 一、入園料 無料

平成十年度竹田会 大盛會裡に開催

平成十年十一月二十日
於 中野サンプラザ
田部 修士(昭42年卒)

平成十年十一月二十日中野サンプラザ・10F芙蓉の間において午後6時から総会・懇親会が開催された。

来賓には、阿南警竹田市長、江藤慎二市議会議長、加藤住生商工会議所相談役、高山前商工会議所会頭、姫野商工会議所会頭、田部同副会頭、菅観光協会会長、板井商店街連合会副理事長、佐野文夫大分県人社編集長を迎え総勢125名余に上る盛大な会となった。

桑島氏の開会宣言に続いて、里見会長が「より会員相互の親睦がはかれることを願って地区別に席を設けた。当会の益々の発展の為に皆様の声を大切にしたい。」と挨拶され、併せて、来賓各位への御礼と本日の会合を準備したボランティアへの労いの言葉を頂戴した。

続いて、来賓の阿南市長が、「地元竹田への会員各位の熱い思いに御礼を申し上げたい。市では自然を生かした町作りに取り組んでいる。河川改修も終わり、今年は鐘楼流しも盛大に、盆踊りも盛り上がった。堀削を始めた温泉開発については来年



大盛會の總會・懇親會場風景

皆様に朗報をお話できればと期待している。」と近況を報告された。

次に姫野商工会議所会頭が竹田市からの来賓を紹介され、併せて竹田市に古くから伝わる民謡の復元を進めている旨紹介があった。最後に、阿南一成参議が万雷の拍手に迎えられ、「皆様のご要望があればお役に立ちたい」と挨拶された。

長吉副会長の発声で一同乾杯、懇親の宴にはいった。恒例の福引きでは、今年も1メートルを超える自然薯に人気が集ま。かぼす、カボスワイン、椎茸等々多くの品々に会場は盛り上がった。

あつと言う間に予定の時間がせまり、全員による故郷の歌で会が締めくくられ、名残が尽きない会場を後にした。



声

「タケタ」を感じましょう

甲斐 文夫(昭43年卒)

緒方町出身の私のところに、広報「おがた」が毎月届きます。小学校の頃ちよつぱりこわかったおじさんが亡くなったり、ぶうせんだった山に舗装道路ができたり、同級生が役場の課長代理になったりと、東京に居ながら「緒方」がすぐそばにあります。今年49才になりました。新宿ー渋谷ー銀座等と街はすっかり覚ええました。でも「緒方駅」に行くバス道路は今でも身体が覚えていません。田舎をなつかしむ歳になったわけではありません。緒方の「カラ」から抜けないままです。昨年は二度「竹田」へ帰りました。高校の頃感じた「マチ」の面影はありませんでした。くやしけれど城下町竹田は冬眠中でしょう。東京で「竹田」を見ませんか？ 久住、長湯、朝地、大野、三重、萩と竹高の卒業生が集まります。関東同窓会に来て田舎を感じて下さい。



掲示板

●貴方のスペース
関東同窓の皆様へ

パソコンなどのお誘い

春めいてきました。いかがが過ぎようか？ 私は最近、パソコンやインターネットに興味を持ち、色々な人と新しい出会いを楽しんでいます。そんなことから今日はパソコン、インターネットへのお誘いを申し上げます。次第です。

- (1) NTTに頼めばお手持ちの電話回線はそのまま簡単にインターネット回線が出来ます。
- (2) 並行してパソコンを導入すれば、パソコンだけでなく、インターネットで新しい出会いが楽しめます。
- (3) 同好の朋友が出来ればいいなあと思っています。半分ボランティアでサービスしますので、遠慮なくご相談下さい。
- (4) その他

大学のクラス会などでは、キーマンバーにインターネットで、幹事から都合の良い日時の間合せがあり、返事を出すと、暫くして会場の予約依頼が来るなどして、あつという間に話がままとまります。

まずは数人の規模から始めて段々広がり、竹田にまで発展すると良いのでは？と思っ

まずは取敢えずお誘いやらへ相談まで。

〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町四〇一六四
電話 〇四五(八二二)五二四五

小松 凱(昭26年卒)

詩歌・文芸

大人誰這うて見するや赤子這う

秋風に歩みはじめし乳子叫ぶ

膳につくまろきひざこや手始め

九九年元旦
O・S生(昭26年卒)

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

平成11年1月10日 没
河野 尚之(昭25年卒)
享年67歳

会員の皆様へ
お知らせ!!

◎第十三回
関東同窓会総会

・平成11年7月17日(出) 予定
受付 AM11時半より
・センチュリーハイアット
桃山の間

◎二五会50周年記念
全国大会開催予告

・日時 平成12年11月
・場所 母校・竹田市内
些か早いようですが
ご予約を願います。

実行委員会一同

あとがき

編集の在り方に就いて数々のご意見を戴き、「臥牛一七号」より、①「声」：会員の自由闊達なご意見欄、②「掲示板」：会員の為のスペースを新設致しております。積極的にご活用下さい。更に、ご要望に従い郷土竹田での昨年一年間の出来事もご紹介してみました。

お詫び!!

紙面の都合でクラス会便り他ご投稿の一部が次号に廻り、誠に迷惑をお掛けしております。

※「投稿」をお待ちしています!!

若い世代の皆様の「クラス会情報」や「特別寄稿」等々ご投稿を特に期待しお待ちしております。



・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

・連絡先
〒279-0022

千葉県浦安市今川2-10-31
神田 清 宛(広報委員長)
047-1354-9456

未来の素材に、



日本パーカライジング株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357